

開発型特殊鋼メーカーの新報国製鉄から、生え抜きとして初の工学博士が誕生した。先日、室蘭工業大学(北海道室蘭市)で行われた学位授与式で、同社研究課長の小奈浩太郎氏が博士号を授与された。博士論文は「高クロム鑄鉄の高温エロージョン摩耗特性」。機械航空創造系学科で清水一道教授の指導を受けた。

小奈氏は会社から全面的な支援を受け、14年4月に室蘭工大大学院工学

新報国製鉄

生え抜き初の工学博士

専攻に入学。清水教授の下で、流動層ボイラ部材の摩耗を研究した。高温(900℃)で高クロム鑄鉄のエロージョン摩耗試験を実施し、摩耗表面の組織を観察。高クロム鑄鉄などの脆性材料でも粒子衝突↓炭化物粉碎↓再結晶による組織の微細化、エロージョン摩耗に及ぼす酸化の影響などを解明した。

小奈氏は「中長期計画の重点拡販ターゲットとしているバイオマス発電ボイラ部品や、産業廃棄物燃焼炉部品など、高温



小奈氏(左)と成瀬社長
使用により損傷する消耗部品の適切な材料推奨や新合金の開発にこの経験を活かしたい」と話している。